

早稲田大学における対話型、 問題発見・解決型教育の展開と支援体制

早稲田大学 大学総合研究センター
石井雄隆

yutakaishii@aoni.waseda.jp



早稲田大学 大学総合研究センター
Center for Higher Education Studies, Waseda University

- 早稲田大学では、対話型、問題発見・解決型教育への移行支援のために、高度授業TAの研修、ICT活用の普及、e-Teaching Award制度、また新しい授業環境施設の開発などを行っている。本発表では、それらの諸活動を支援している大学総合研究センターの活動について紹介する。

WASEDA VISION 150

教 旨

1. 学問の独立 -世界へ貢献する礎- 2. 学問の活用 -世界へ貢献する道- 3. 模範国民の造就 -世界へ貢献する人-

Vision

教育・研究 ビジョン

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1. 世界に貢献する高い志を持った学生 | 【基軸1】 人間力・洞察力を備えたグローバルリーダーの育成 |
| 2. 世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する研究 | 【基軸2】 未来をイノベートする独創的研究の推進 |
| 3. グローバルリーダーとして社会を支える卒業生 | 【基軸3】 校友・地域との生涯にわたる連携の強化 |

大学経営 ビジョン

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 4. アジアの大学のモデルとなる進化する大学 | 【基軸4】 進化する大学の仕組みの創設 |
|------------------------|---------------------|

核心戦略

核心戦略を実現するためのプロジェクト

教学戦略

展開戦略

— 教育と学修内容の公開

— 対話型，問題発見・解決型教育への移行

対話型、問題発見・解決型教育への移行

学修量

社会(受験生、保護者、企業 etc)

海外大学における学修時間

学修時間

学修ポートフォリオ

モバイル
ラーニング

発表資料作成

知識修得

クラス担任、
学生担当etc

フレンドィッド
ラーニング

自学自習
予復習
・ICT活用
・いつでも
どこでも
何度でも

教場・体験型
授業

対話型、
問題発見・解決型
体験型

演習・ゼミ
グループワーク
学生の発表
ディベート
フィールドワーク
ボランティア
インターンシップ

一方的な講義

※対話型、問題発見・解決型教育へ重点を移し、自学自習予復習時間が増加する

2032年⁴

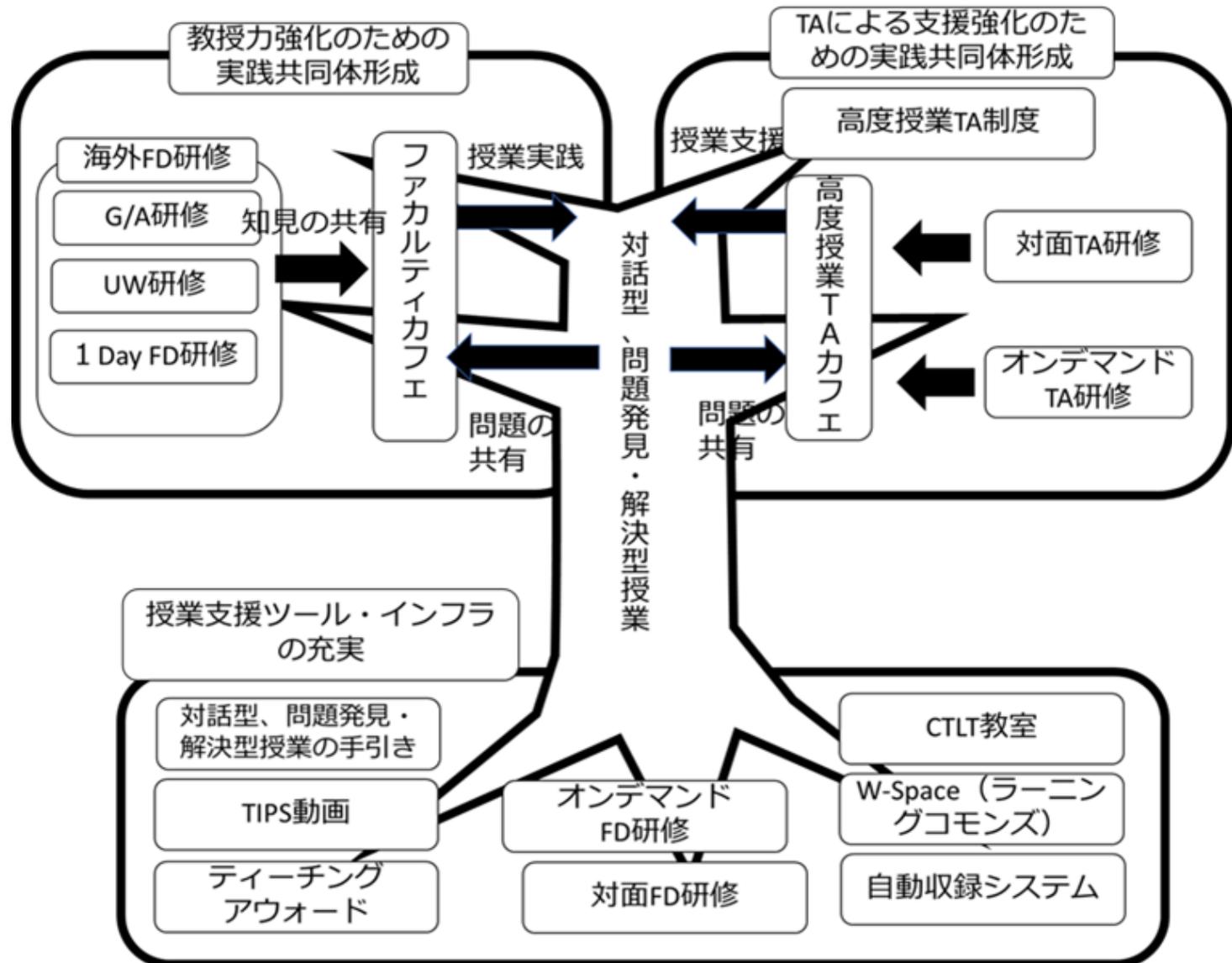


教育方法研究開発部門 (CTLT)

Center for Teaching, Learning, and Technology



大学教育総合研究センターにおける教育・学修支援



Waseda Vision150ならびにSGUの目標である
「英語 (外国語) による授業割合50%」を実現するため、
英語による授業の方法を学ぶ機会を提供しています。

EMI (English as a Medium of Instruction)

非英語圏において母国語を使用せずに英語で教えること

【上級】 海外FD (GLCA/ACM)

EMIの実践

【中級】 海外FD (UW)

EMI の学修

【初級】 国内FD (UQ)

CLIL の学修

CLIL (Content and Language Integrated Learning)

授業内容の学習と外国語学習を統合して行う教授法

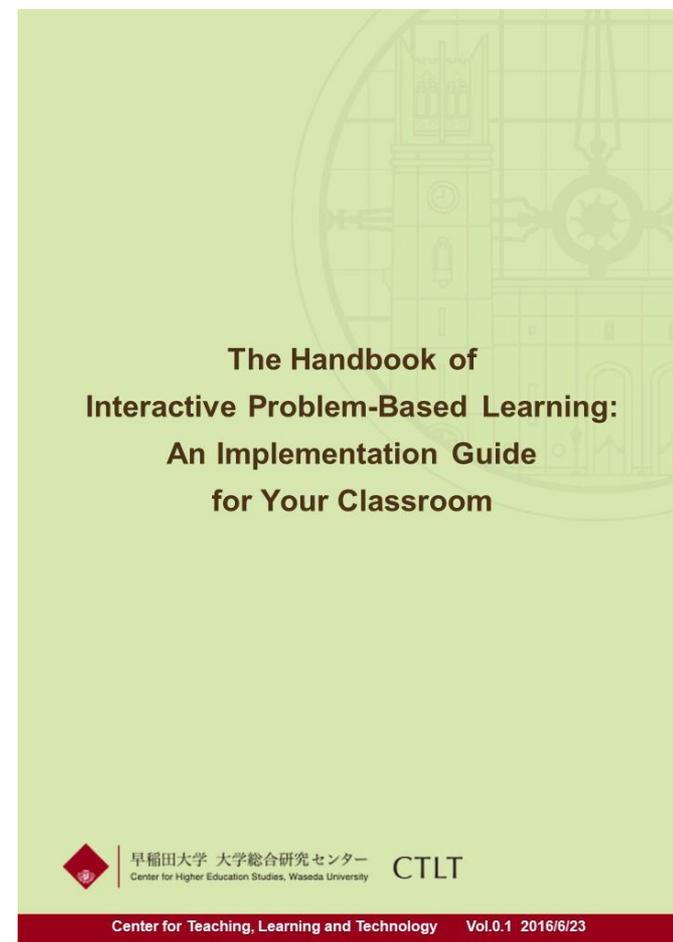
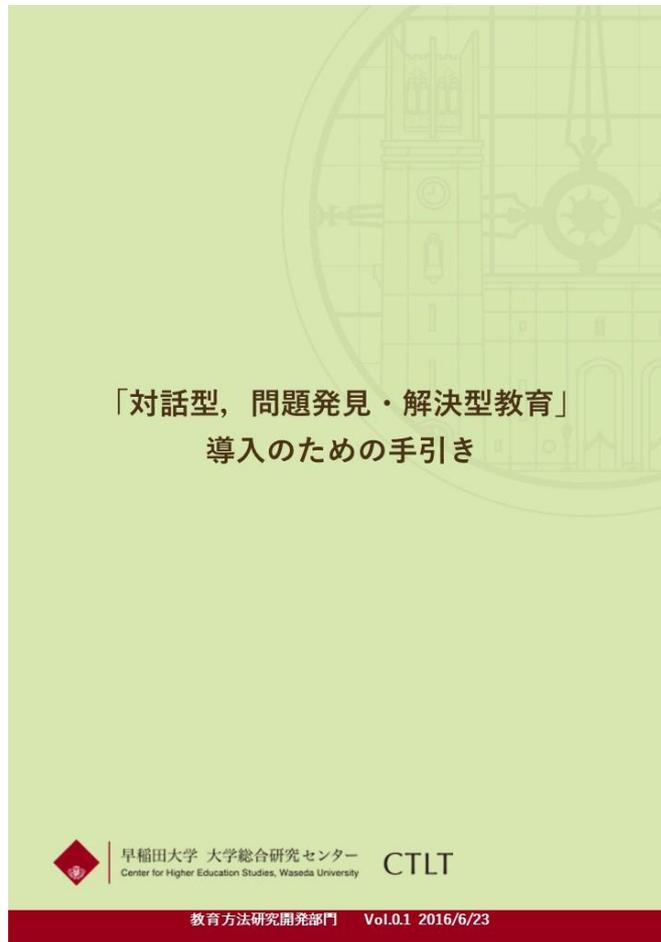
- 全学**FD**コンテンツ（フルオンデマンド）
 - 高等教育と**FD**（**Faculty Development**）
 - 授業設計のポイント
 - 早稲田大学における対話型，問題発見・解決型教育
 - ルーブリックを活用した教育評価



高等教育とFD (Faculty Development)

大学総合研究センター 副所長
吉田 文

早稲田大学 大学総合研究センター
Center for Higher Education Studies, Waseda University



グループワーク・ディベートの手法，フィールドワークの手法，プレゼンテーション，
振り返りの手法などを授業フェーズごとに紹介

- **Good Practices**

- 早大教員の授業におけるGood Practice

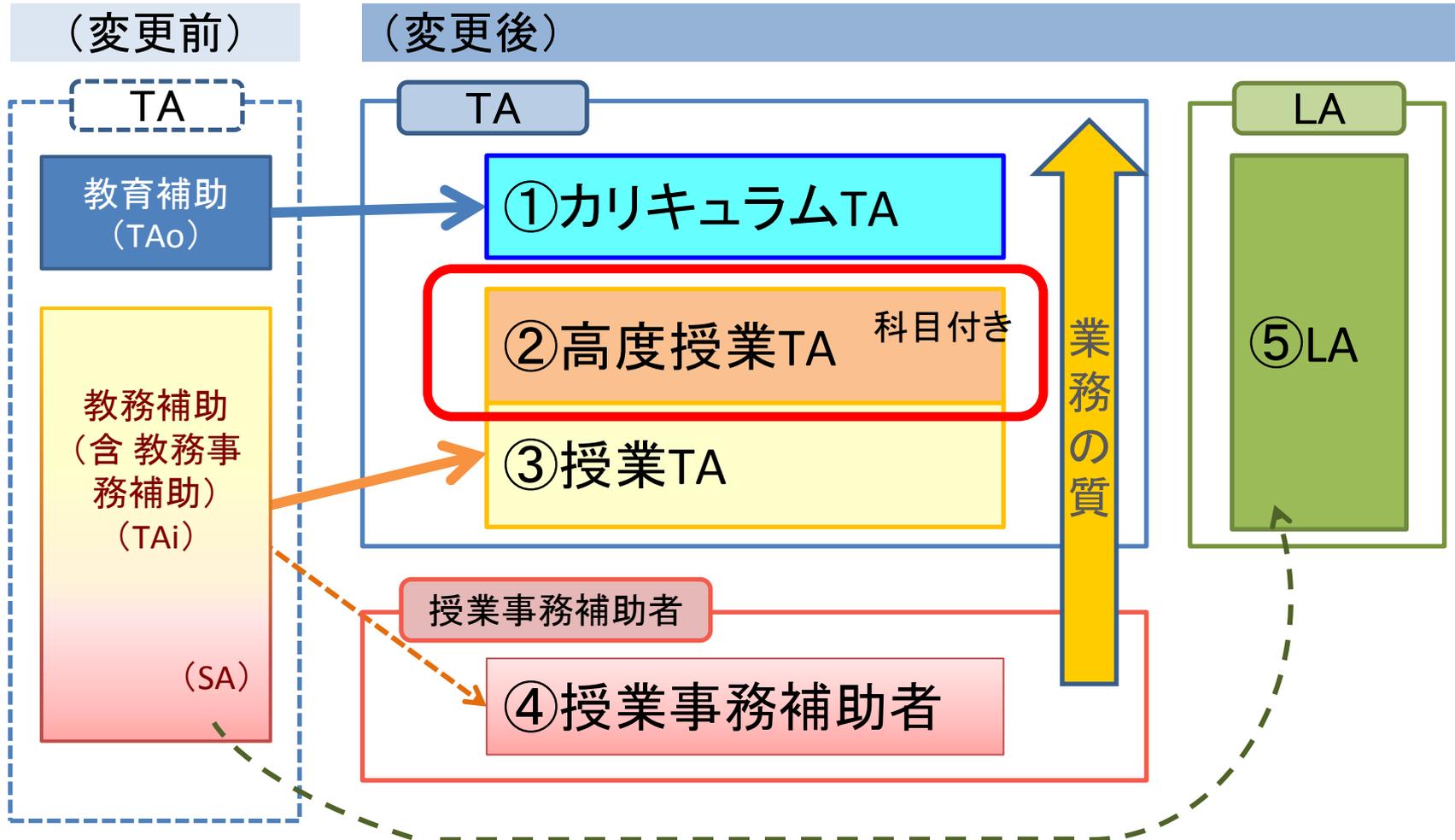
- アクティブラーニングTips集

- アクティブラーニングで使えるTipsを、数分のビデオクリップとして配信しております。



A screenshot of a presentation slide. At the top, a blue header bar contains the text "Peer Instruction (ピア・インストラクション)". Below the header, there is a bulleted list in Japanese: "Harvard大学 E.Mazur教授が開発した能動的学習法", "Peer (相互に) + Instruction (教え合う)", and "授業中に問題を出題し、付近の学生同士で議論させることにより理解度を高める". At the bottom of the slide, there is an illustration of a person in a suit standing next to a screen. The screen displays a pie chart and the Japanese word "問題" (Problem). Below the screen are five small teal circles.

高度授業TA制度



授業前の支援

- アクティブラーニングの教材作成支援
- 実習課題, 演習課題の提案
- 反転授業の動画制作支援
- 教材の多言語化対応
- 授業で使用する基礎統計資料のアップデート
- ケース教材の作成支援
- 教材用資料, データ収集
- 教材用映像の編集
- 実験実習の準備

授業中の支援

- ディスカッションセッションの支援
- ティームティーチングによる指導
- 教員指示に基づく演習問題の解法指導
- 学生からの質問に対する助言
- 学外実習の実習作業補助
- 実験実習補助

授業後の支援

- 授業内容要約 (サマリー) 作成
- 試験・レポート・課題採点補助

- オンライン研修（必修）

- 高度授業TAとは

- 授業設計のポイント

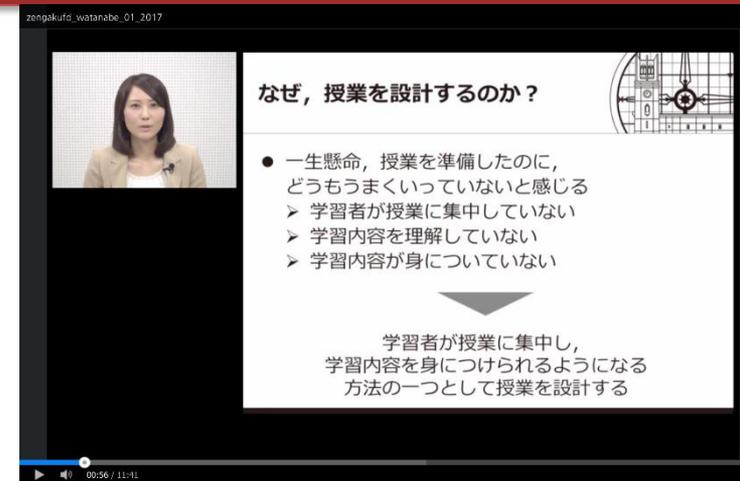
- 早稲田大学における対話型，問題発見・解決型教育

- ルーブリックを活用した教育評価

- 対面研修

- ワークショップ

- 高度授業TAカンファレンス



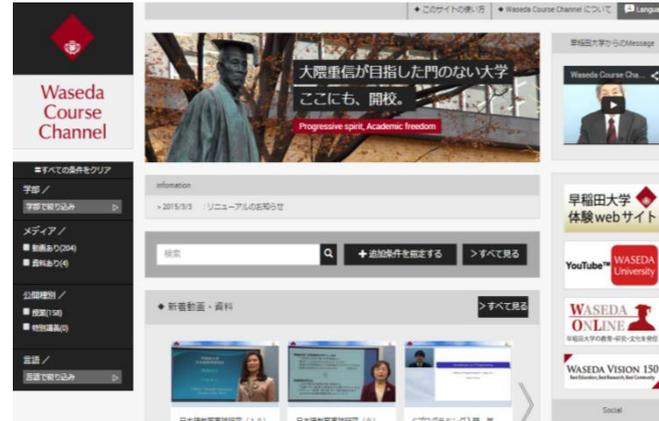
学修環境デザイン

「対話型，問題発見・解決型授業」の支援，具体的にはアクティブラーニング教室（CTLT Classroom），グループ学習スペース（W Space）等を拠点とした学修支援，MOOC等を活用したオンライン教育と対面教育の融合（反転授業）などをテーマとした研究ならびに実践を行っています。開発された教育手法の実践の場としてGEC（Global Education Center）とも連携します。



Good Practiceの収集と普及

学内における優れた教育実践事例の共有と普及・展開をはかるための取り組みの一環として「ティーチングアワード」 「e-Teaching Award」を実施し、その成果をGood Practiceとして公開しています。あわせてWaseda Course Channelによる講義動画の公開等も推進しています。



早大教員の授業における Good Practice & Tips 集

プロフィール



2017年3月 6日 00:00

欠席した学生のフォローから、プレゼン能力の向上まで。自動収録システムの活用で、ゼミの利便性と可能性を広げる

神風達之 教育・総合科学学術院教授

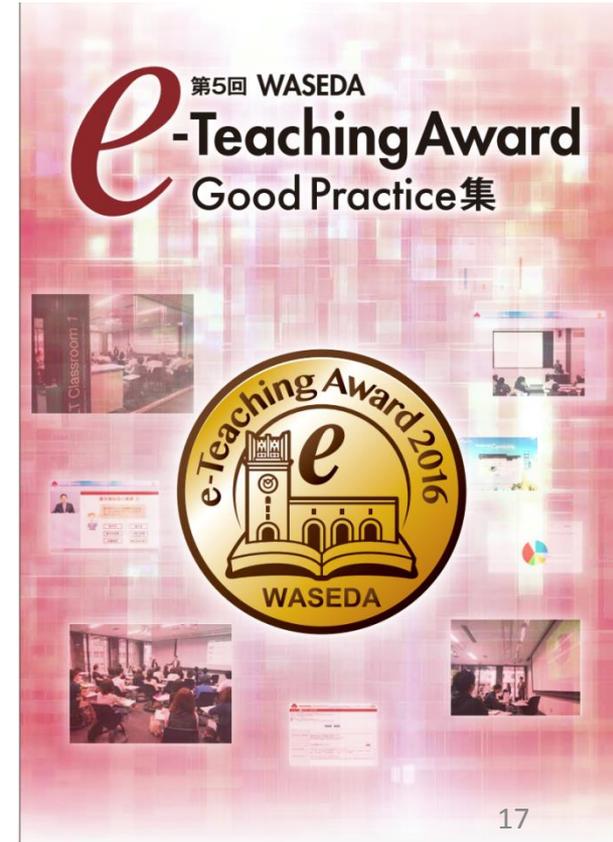
神風達之教授と福田育弘教授が2人で指導にある「複合化学演習」では、2015年度から3年間のCTL roomで授業を行うことを選択し、同時に自動収録システムの利用を開始した。このシステムで撮影した動画をどのように活用しているのか、またどんな効果が得られているのかについて、神風教授に話を聞いた。

【自動収録システムの活用法】

- (1) 欠席した学生のフォロー
- (2) プレゼンを行った本人の振り返り
- (3) 前年度の「ベストプレゼン」による学習

ゼミ活動の中心は、プレゼンテーションとディスカッション

ゼミでは、自動収録システムで撮影した映像を3つの目的で利用している。詳しく聞いていく前に、まずはゼミの



- 対話型，問題発見・解決型教育の成果の測定
 - ALポイントなどの先行事例
- オンデマンドコンテンツを活用した新たな教育手法の開発と普及
 - ワシントン大学との共同プロジェクトで開発したSmall Private Online Courses (SPOC)を活用した反転授業型FDセミナー